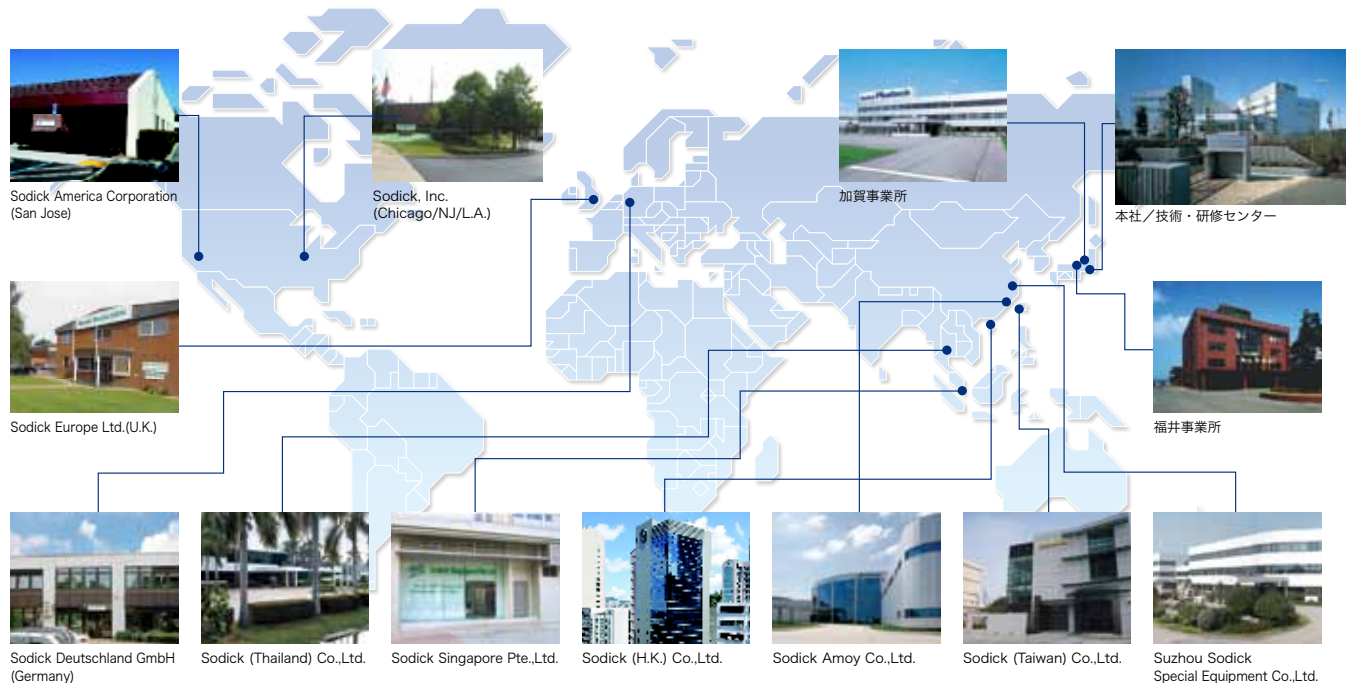


世界の主要拠点 (平成24年9月30日現在)

国内

本 社	横 濱					
営業拠点	仙 台 松 本	太 田 静 岡	大 宮 名 古 屋	東 関 東 大 阪	横 濱 岡 山	福 井 福 岡
事 業 所	福 井	加 賀	宮 崎			



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL: 045-942-3111
FAX: 045-943-5835
(証券コード: 6143)



●この冊子はFSC 森林認証用紙と植物性インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス ir@sodick.co.jp



モバイルサイトのご案内

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を
随時更新しています。



株式会社 ソディック

第37期第2四半期

事業報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日

Business Report



未
来
を
創
る

Sodick

Sodick Corporate Highlights

展示会

IMTS2012、
JIMTOF2012に出展

当社は、IMTS2012(9月10日～9月15日、米国シカゴにて開催)、JIMTOF2012(11月1日～11月6日、東京ビッグサイトにて開催)に出展しました。米国のIMTS、日本のJIMTOFは2年に1回開催される工作機械見本市で、モノづくりの世界に携わる世界中のお客様から関心が持たれています。当社は「未来を創る」をキーワードにLED、エコカー、航空機、医療など需要拡大が期待できる分野を中心に多彩なソリューションを提案するとともに、最先端の技術を駆使した新製品をご紹介します。



新製品

世界初! 19インチ・マルチタッチ液晶
モニタ方式採用
ワイヤ放電加工機SL400G、SL600G

スマートフォンやタブレット端末、精密自動車部品などの精密金型、精密部品加工においてご好評をいただいている、リニアモータ駆動高速・高性能ワイヤ放電加工機の新シリーズとして、従来に比べ圧倒的な性能を発揮する「SLシリーズ」を開発しました。「SLシリーズ」は、スマートフォンのようなタッチパネルによる操作が可能で、初心者から熟練者まで簡単に操作が可能です。



新製品

超精密・超微細加工で好評の
APシリーズに待望の大型機
超精密ワイヤ放電加工機 AP650L

超精密・超微細領域でご好評いただいている“リニアモータ駆動 精密ワイヤ放電加工機 AP シリーズ”にユーザーからの要望が大きかった大型機「AP650L」を開発し、ラインナップに加えました。



CONTENTS	Sodick Corporate Highlights	1	当第2四半期(累計)の業績	7
	株主の皆様へ	2	当第2四半期(累計)連結財務諸表(要旨)	8
	グローバルネットワークとセグメント別概況	3-4	株式情報/株式分布/会社概要/役員	9
	特集 株式会社ソディックプラスティックの合併について	5-6	株主メモ	10

未来を創る

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。現在の当社グループを取り巻く経営環境を見ますと、記録的な円高の長期化、欧州の金融不安、中国経済の減速、さらには中国における日本製品の不買運動の実体経済への影響など懸念材料を挙げれば枚挙にいとまがありません。

こうした変化が激しく、先の読めない情勢下で継続的な成長を成し遂げるためには、研究開発・製造・販売すべての面で柔軟かつ迅速な対応がより重要になってきています。当社グループは、この不透明な情勢を乗り切るために経営効率の向上を目指して、さまざまな取り組みを実施しています。本年7月には、主要な事業である産業機械事業と食品機械事業を主に担当していた株式会社ソディックプラスティックを合併し、組織の再編や営業拠点の統廃合など経営資源の最適化を進めました。生産面においても、タイ工場が昨年の「50年に1度」といわれるほどの大洪水で被害を受けましたが、罹災した工場を復旧させるだけでなく、今後同じリスクにさらされないことがないように、同程度の洪水でも浸水被害を受けない安全な土地を確保し、新工場を建設いたしました。この新工場は当下半年より稼働予定で、リスク回避、生産性の向上に大いに貢献する見込みです。販売面においては、経済成長著しい将来性豊かな市場であるベトナムにも現地法人を設立し、販売網の拡充に努めております。これらすべての取り組みを着実に遂行すれば、かならずや継続的な成長が成し遂げられるものと確信しております。

ソディックの経営理念である「創造」「実行」「苦勞・克服」の信念の下、社業の発展のため精励してまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 金子 雄二

配当について

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE)2%以上を目標として考えております。

平成25年3月期の利益配分につきましては、基本方針と収益状況から判断し、第2四半期末配当を1株当たり6円といたします。なお、期末配当は1株当たり6円とし、第2四半期末配当金を含め、年間配当金は1株当たり12円とする予定です。

グローバルネットワーク

世界中のものづくりを支えるために、
開発、生産、販売拠点の
グローバル化を促進しています。

グローバル化の加速に伴い、海外売上高は拡大しています。ソディックグループは、日本や欧米などの先進工業国だけでなく、経済成長著しい新興国にも進出しています。その新興市場の代表的地域である中国では、1990年代の初頭より積極的にビジネスを展開しており、中国経済の成長に伴いソディックグループは大きな成果をあげております。同地域における販売・サービス網は、台湾を含めて中国全土に27ヶ所設置された営業・サービス拠点により構成されており、この充実したネットワークにより、お客様が安心して機械をお使いになれるきめ細やかなサービス提供が可能になっています。今後はインド、東南アジア及びブラジルなど新市場にも注力し、世界中の「ものづくり」に一層貢献してまいります。

海外売上高比率

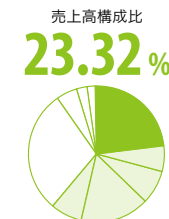
	海外	日本
当第2四半期	63.0%	37.0%
前第2四半期	60.9%	39.1%



セグメント別概況

工作機械事業 (日本)

国内の設備投資需要は、スマートフォン関連の需要や震災からの復興需要に支えられ、徐々にではありますが回復基調で推移いたしました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比67百万円増(1.0%増)の65億68百万円となりました。



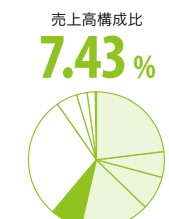
工作機械事業 (欧州)

欧州地域では、自動車産業など輸出産業を中心に設備投資需要がみられたものの、信用不安の影響もあり、設備投資に対して消極的になりつつあります。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比4億75百万円減(17.6%減)の22億25百万円となりました。



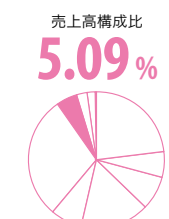
工作機械事業 (その他アジア)

当地域では、自動車や二輪車向け需要が順調に推移しましたが、景況感の悪化に伴い設備投資に慎重になりました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比4億88百万円増(30.4%増)の20億94百万円となりました。



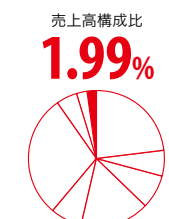
精密金型・精密成形事業

当事業においては精密コネクタなどの精密成形品の製造を行っております。震災やタイの洪水の影響で減少していたハイブリッドカー向けの出荷量が回復傾向にありました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比1億12百万円増(8.5%増)の14億32百万円となりました。



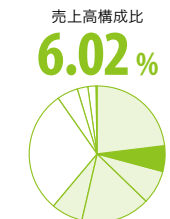
要素技術事業

当事業は、モータ及び制御装置の製造販売、セラミックス製品の製造販売、金型生産統合システムの販売から構成されております。当事業の売上高は前年同四半期比6億95百万円減(55.4%減)の5億60百万円となりました。



工作機械事業 (北・南米)

北米地区においては、航空機関連や医療機器向けなどの先端分野向けに手堅い需要が見られました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比1億46百万円減(7.9%減)の16億96百万円となりました。



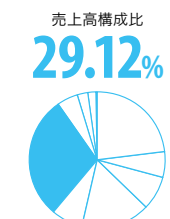
工作機械事業 (中華圏)

中華圏においては、中国政府の金融引き締め政策による設備投資需要の低迷を脱しましたが、前年同期四半期ほどの旺盛な需要にはいたりませんでした。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比39億14百万円減(45.6%減)の46億63百万円となりました。



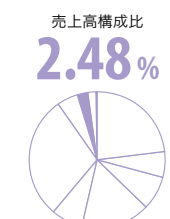
産業機械事業

射出成形機の販売においては、主要な需要先である液晶関連分野の需要が弱含みで推移しましたが、前期末までに検収予定だった大型案件の一部が当第1四半期会計期間にずれ込んだため、売上は増加することとなりました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比37億67百万円増(84.9%増)の82億4百万円となりました。



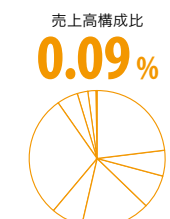
食品機械事業

当事業は、コンビニエンスストア用製品向けの需要が好調だったほか、海外市場においてもアジア圏を中心に製麺機の引き合いが多数ありましたが、受注から納品、検収まで半年以上かかる案件も多いため、四半期単位で見ただけでは業績にばらつきが生じやすい傾向があります。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比5億62百万円減(44.7%減)の6億97百万円となりました。



その他の事業

その他は、パンフレットなどの印刷物の製作事業や放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。その他の売上高は前年同四半期比25百万円減(48.9%減)の26百万円となりました。



事業再編でグループシナジーを拡大

当社は平成24年7月1日に株式会社ソディックプラスチックを合併いたしました。これは、経営環境の変化に対応し、ソディックグループ全体での経営戦略の策定と遂行、経営資源の選択と集中等の諸施策を迅速に行うことによりソディックグループの競争力を維持・強化すること、市場のグローバル化に伴い、地域ごとのニーズに応じた新たな製品の提供や新規の販売網の構築を目的とするものです。

ソディックグループの競争力の維持・強化

Sodick

ソディック

- 工作機械事業
- 精密金型・精密成形事業
- 要素技術事業



ソディックプラスチック

- 産業機械事業
- 食品機械事業
- 要素技術事業



グループシナジーの創出

1 モジュラー設計の展開

共通の部品を使用するモジュラー設計を、放電加工機から射出成形機、食品機械など幅広い製品で採用してまいります。モジュラー設計の採用により、より少ない部材・部品で多様な品種の供給が可能となり、生産性が向上します。また、部品の共通化・少数化により製品品質が安定するほか、保守部品の在庫も圧縮され、アフターサービスの負担も軽減されます。モジュラー設計は、コストの削減、収益力の強化に貢献します。

2 経営資源・人的資源の有効活用

国内外の営業拠点や研究開発部門、管理部門など一体化が可能な組織を最適化することにより経費を削減します。

3 射出成形機の海外市場における販売力の強化

ソディックプラスチックは、アジア圏を中心に海外でも販売網を展開しつつも、日本国内を主な市場としてきましたが、ソディックの持つ米国、欧州、アジア圏における広範な販売網の利用、また、ソディックが放電加工機関連事業で長年にわたり培ってきたブランド力や信用力を活用した総合的な事業展開が可能になります。

5 金型～成形品までカバーする営業力

モノづくりの現場では、金型の製造から最終製品である樹脂成形品までトータルで製造するお客様も数多くおられます。今回の吸収合併により、金型の製造と関係の深い放電加工機と成形品の製造に使われる射出成形機を組み合わせ、お客様のご要望に適した提案をすることが可能となります。

4 射出成形機、食品機械の海外工場での製造推進

ソディックプラスチックは、射出成形機、食品機械を主に国内において製造してまいりましたが、ソディックの放電加工機の製造工場である海外工場を有効活用してまいります。海外生産をすることにより原価低減が進み、射出成形機、食品機械のコスト競争力が一層強化されるほか、成長市場に近いメリットを活かして、市場ニーズに合った製品をすばやく提供することが可能になります。

持続的成長が可能なグループ体制へ

当第2四半期の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要を背景に、緩やかに回復し、企業の生産活動や設備投資にも持ち直しの動きがみられました。一方、海外経済は、欧州金融不安による欧州経済の動揺や世界経済を牽引してきた中国経済の成長鈍化、円高の長期化による企業業績への影響など、企業を取り巻く環境は厳しく、先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした経営環境の下、当社グループは、米国で開催された世界的な工作機械の展示会「IMTS2012」に出展し、お客様のニーズの高い大型ワイヤ放電加工機など新製品を紹介するなど顧客の獲得に努めたほか、経済成長が著しく、さらなる需要の増加が見込まれるベトナムに新たに現地法人を設立し、販売網を拡充いたしました。また、主に産業機械事業、食品機械事業を担当していた連結子会社である株式会社ソディックプラステックを平成24年7月1日付で吸収合併し、経営資源の効率化と経営スピードの向上を図るとともに、収益力の強化に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比13億83百万円減の281億70百万円(前年同四半期比4.7%

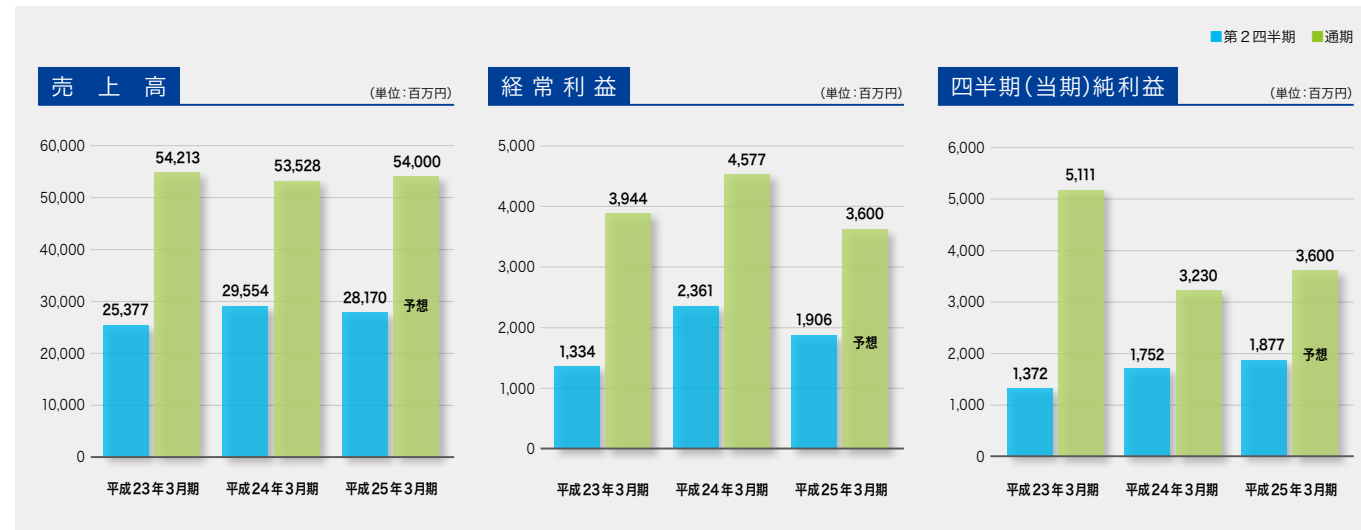
減)となりました。利益面では、営業利益は前年同四半期比12億27百万円減の25億99百万円(前年同四半期比32.1%減)、経常利益は前年同四半期比4億55百万円減の19億6百万円(前年同四半期比19.3%減)、四半期純利益は前年同四半期比1億24百万円増の18億77百万円(前年同四半期比7.1%増)となりました。

通期の見通し

平成25年3月期の通期連結業績予想につきましては、主要な市場である中華圏の景気減速の傾向が強まることや円高の継続など、厳しい経営環境が見込まれることから、売上高・営業利益・経常利益は、前回予想を下回る見込みです。当期純利益につきましては、タイの洪水被害の保険金収入による特別利益が発生したことに加え、当下半期においても、詳細な金額は未定ですが保険金収入が追加で見込まれることもあり、前回予想を上回る見込みとなりました。

以上の理由により、平成25年3月期通期の連結業績予想は、売上高540億円(前期比0.9%増)、営業利益45億円(前期比18.1%減)、経常利益36億円(前期比21.4%減)、当期純利益36億円(前期比8.4%増)としております。

連結業績ハイライト



四半期連結貸借対照表

科目	期別 前連結会計年度 平成24年3月31日 現在	当第2四半期 連結会計期間 平成24年9月30日 現在
資産の部		
流動資産	63,536	54,738
固定資産	29,456	30,728
有形固定資産	22,408	22,278
無形固定資産	3,527	3,494
投資その他の資産	3,521	4,955
資産合計	92,993	85,467
負債の部		
流動負債	41,899	33,288
固定負債	21,376	21,176
負債合計	63,275	54,464
純資産の部		
株主資本	31,851	33,404
資本金	20,775	20,775
資本剰余金	5,879	5,879
利益剰余金	6,891	8,444
自己株式	△ 1,694	△ 1,694
その他の包括利益累計額	△ 2,198	△ 2,438
新株予約権	23	—
少数株主持分	41	35
純資産合計	29,718	31,002
負債純資産合計	92,993	85,467

四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

科目	期別 前第2四半期 連結累計期間 平成23年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
売上高	29,554	28,170
売上総利益	9,940	8,649
営業利益	3,826	2,599
経常利益	2,361	1,906
税金等調整前四半期純利益	2,351	1,997
四半期純利益	1,752	1,877
四半期包括利益	1,331	1,645

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 前第2四半期 連結累計期間 平成23年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,906	471
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,580	△ 2,296
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,900	△ 6,356
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 357	△ 115
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,868	△ 8,296
現金及び現金同等物の期首残高	16,615	27,316
連結外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 29
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,483	18,989

株式情報 (平成24年9月30日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	15,929人

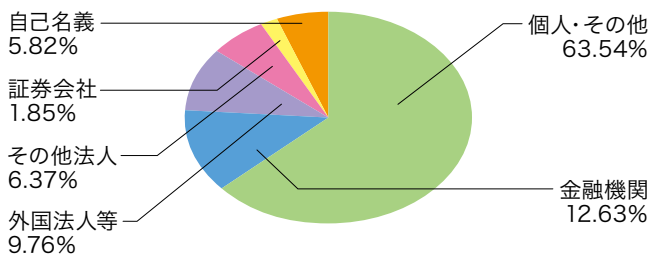
大株主 (平成24年9月30日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,112,732	5.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,204,600	4.12
古川 利彦	1,195,975	2.23
有限会社テイ・エフ	1,150,000	2.15
ソディック共栄持株会	1,028,800	1.92
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	758,100	1.41
鈴木 正昭	726,260	1.35
株式会社北陸銀行	700,000	1.31
ザチース マルハンク エイイ ロボット エス エル オムバス アカウト	601,280	1.12

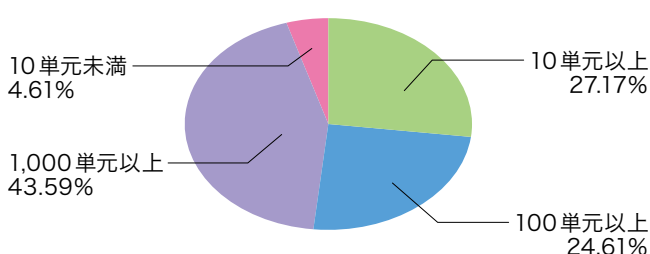
会社概要 (平成24年9月30日現在)

会社名	株式会社ソディック
所在地	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
設立	昭和51年8月3日
資本金	207億7,575万6,958円
代表者	金子 雄二
従業員数	621人(連結3,004人) ※平成24年9月末現在
連結子会社	25社
営業品目	形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(バレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用工具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

所有者別株式分布状況 (平成24年9月30日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成24年9月30日現在)



役員 (平成24年9月30日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
代表取締役副会長	藤原 克英
代表取締役社長	金子 雄二
専務取締役(管理・総合企画担当)	古川 健一
専務取締役(グローバル販売担当)	高木 圭介
専務取締役(放電加工機事業担当)	松井 孝
専務取締役(射出成形機事業担当)	藤川 操
常務取締役(食品機械事業担当)	大迫 健一
常務取締役(マニシングセンター事業担当)	佐野 定男
常勤監査役	楠 左衛治
監査役(非常勤)	小山 秋吉
監査役(非常勤)	大木 國男
監査役(非常勤)	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほインベスターズ証券の各本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) [手続き書類のご請求方法] ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)

(※) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

単元未満株式の 買増・買取制度について

株主様のご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。